

阪神機器株式会社

2022年度 環境経営レポート

(対象期間：2022年4月～2023年3月)



発行日：2023年6月14日

環境経営方針

<環境基本理念>

近年、オゾン層の破壊、地球温暖化、生態系の破壊等の環境問題は、世界中で解決していかなければならない緊急の課題となっております。

私たち阪神機器は「人と地球にやさしいモノづくりで社会に貢献する」というスローガンのもと、経営における課題とチャンスを定期的に明確にした上で本業である電気機器製造・建設用構造部品製造及び機械加工部品製造における地球環境の大切さを認識し、全従業員が一丸となって環境負荷を低減する環境保護活動に取り組みます。

<環境指針>

1. 当社の事業活動から生じる環境負荷を低減させ、環境保護に考慮します。
2. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制につとめ、リサイクル率の向上に努めます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 化学物質使用量の適正管理に努めます。
6. 低燃費車の導入により環境配慮に取り組みます。
7. 廃棄物の削減、リサイクルの促進、省資源、省エネルギー、グリーン購入、環境配慮の製造方式に取り組み、汚染の予防に努めます。
8. 環境側面に関係して適用可能な法規、条例、協定等の要求事項を順守します。
9. 環境保護活動を推進させるための統合マネジメントシステム（EA21を含む）を確立し継続的に改善します。
10. 環境目標を設定し、実施状況を確認し年度毎に見直しを行います。
11. 環境経営方針を全従業員に周知を行います。

制定日： 2020年1月30日

改訂日： 2021年4月1日

代表取締役社長 **山田 隆一**

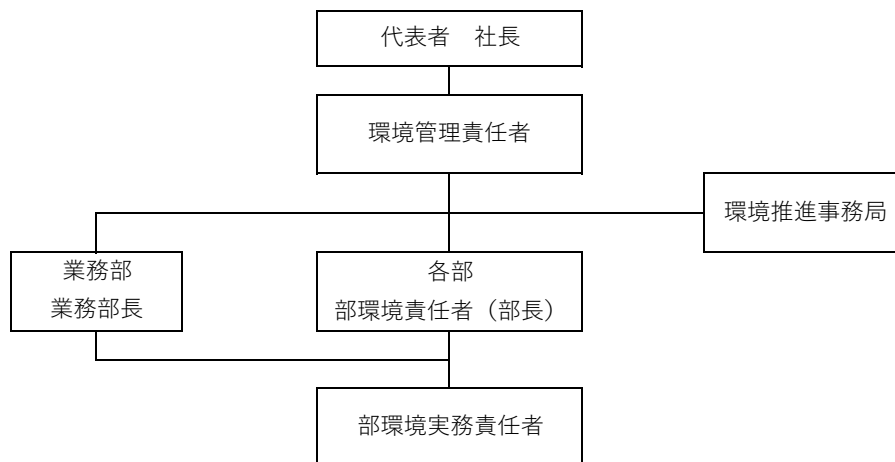
●組織の概要

- (1) 会社名 阪神機器株式会社
代表者名 代表取締役社長 山田 隆一
環境管理責任者 山野井 雅人
- (2) 所在地
本社・ユニット工場 〒651-2124 兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和字一ノ坪7 4 5 番地
板金工場 〒651-2124 兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和字一ノ坪7 3 0 番7
物流センター 〒651-2124 兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和字近角7 6 2 番地6
組立工場 〒651-2411 兵庫県神戸市西区上新地三丁目6 番3
- (3) 連絡先 TEL : 078-974-0037
FAX : 078-974-7223
E-mail : yamanoi@hanshinkiki.co.jp
- (4) 事業内容
当社が顧客と契約する配電盤、制御盤、圧縮機用起動盤、電力・産業用電気機器、
建設用機械用部品・制御装置の受注、設計、製造から納入に至る業務、及び
機械加工部品の受注、製造から納入に至る業務。
- (5) 事業の規模
売上額 27億4671万円 (2022年度)
従業員 155名
敷地・延床面積 (㎡)
本社・ユニット工場 3,089 / 6,834
板金工場 1,724 / 1,399
物流センター 1,097 / 663
組立工場 3,401 / 4,042
- (6) 事業年度 4月1日～翌年3月31日

●認証・登録の対象組織・活動

登録組織名	阪神機器株式会社
対象事業所	本社・ユニット工場 板金工場 物流センター 組立工場
活 動	各種制御機器・電気機器、建設用機械用部品の設計、 製造及び機械加工部品の製造

●環境経営実施体制



	役割・責任・権限
代表者（社長）	①経営理念の制定 ②中期及び年度計画の作成 ③統合（環境）マニュアルの検認・制定 ④統合（環境）マネジメントシステムの運用及び管理の為に人材、技能、技術及び資金の投入 ⑤経営における課題とチャンスの整理と明確化 ⑥環境方針及び環境目標の決定及び見直し ⑦環境管理責任者の任命 ⑧緊急事態が発生した場合の環境管理責任者への指示 ⑨公害防止統括者として、公害防止及び環境管理改善に関する業務の統括 ⑩神戸市との「環境保全協定」に基づく事業者として公害防止及び環境管理改善に関する業務の統括 ⑪臨時内部監査の発動 ⑫マネジメントレビューの開催、有効性の評価と改善指示 ⑬統合（環境）マネジメントシステムの見直し
環境管理責任者	①エコアクション21に沿った環境マネジメントシステムを確立・整備・推進・維持 ②社長が環境に関連する実務を遂行できないときの代行 ③環境マネジメントシステム活動状況の把握と社長への報告 ④環境マネジメントシステムがその意図した結果を達成することを確実にする ⑤必要に応じての環境マネジメントシステムの改善 ⑥利害関係者要求事項の確認と実現の重要性の啓蒙 ⑦環境目標の立案と社長により決定及び見直しされた環境方針、環境目標の周知 ⑧著しい環境側面の抽出、評価、登録 ⑨内部環境監査員教育の実施と任命 ⑩内部環境監査の計画、実施及び社長への報告 ⑪環境推進事務局会議の開催 ⑫環境推進事務局会議の決定事項の統合マネジメントシステムへの取り込み ⑬環境マネジメントシステムのパフォーマンス、改善の機会、変更及び変革の必要性の有無について社長に報告 ⑭緊急事態又は、不適合が生じた場合その処置と是正措置の指導及び支援 ⑮社内外の環境に関する窓口業務 ⑯環境法規等要求事項の明確化(法規等要求事項一覧表兼順守状況点検表、法定資格者一覧表の作成と見直し及び各部送付) ⑰全社の法規等要求事項一覧表兼順守状況点検表のまとめ ⑱環境マネジメントシステムの認証・登録に関する事項

環境推進事務局	①環境管理責任者の業務を補佐 ②当社の課題、利害関係者のニーズより取り組むべきリスクと機会の抽出 ③全社環境側面より著しい環境側面の抽出。 ④当社に適用される法規等の明確化(法規等要求事項一覧表兼順守状況点検表の作成と更新) ⑤上記②、③、④より環境目標制定のための企画・立案 ⑥全社環境目標展開書(実施計画)の取り纏めとフォロー ⑦環境マネジメントシステムの改善のための企画・立案 ⑧マネジメントレビューにおける社長指摘事項のフォローアップ ⑨ISO統合審査指摘事項は正計画のフォローアップ ⑩該当法規の更新確認と保管
各部署環境責任者 (部長)	①自部署の製作担当製品及びサービスにおけるすべての運営管理を行い、生産活動が製品要求事項を満たすことを確実にする ②自部署の製作担当製品の設計開発及び生産技術開発に関する業務を担当する ③自部署の生産設備を維持・管理する ④自部署の製作担当製品及びサービスの原材料の調達並びに仕入先の評価を行う ⑤自部署の製作担当製品及びサービスの品質保証業務を統括する ⑥自部署の環境側面を管理する。 ⑦自部署に該当する法規等の順守状況を監視し、順守を確実にする ⑧自部署の環境目標を計画し、意図した成果を達成させる ⑨自部署の顧客の顧客満足情報の収集する ⑩自部署の生産活動に必要な力量を明確にし、教育を実施する ⑪自部署の所属員に環境基本教育等を行う ⑫自部署の部環境実務責任者を任命する
業務部長	①環境方針及び適用範囲の一般への公開 ②所轄官庁との窓口業務 ③廃棄物管理及び産業廃棄物処理委託業者の評価 ④上下水道管理 ⑤エネルギー管理 ⑥該当法規等資格者の人材確保及び教育の提供 ⑦地域住民・利害関係者とのコミュニケーションの窓口 ⑧新入社員・中途入社社員への環境基本教育の実施
部環境実務責任者	①部長を補佐して部内環境マネジメントシステムを推進し維持する ②環境推進事務局員として環境管理責任者を補佐して全社環境マネジメントシステムを推進し、整備し、維持する

●主な環境負荷の実績

項 目	単位	2019年度 基準年度	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	1,375,004	1,483,686	1,555,445	1,627,240
電力	k Wh	1,815,984	1,774,946	1,804,368	1,993,621
ガソリン	L	13,019	10,273	9,073	9,270
軽油	L	22,202	14,253	11,240	10,580
都市ガス(LNG)	m ³	171,897	186,617	221,295	213,448
廃棄物排出量総量	kg	402,949	600,329	1,086,081	1,054,635
一般廃棄物総量	kg	26,180	40,100	80,100	75,260
一般廃棄物※1	kg	14,610	13,770	12,960	11,910
産業廃棄物総量	kg	376,769	560,229	1,005,981	979,375
産業廃棄物※1	kg	47,535	375,169	832,607	822,878
水使用量	m ³	9,104	10,177	10,383	8,932
化学物質※2	kg	1,119	645	743	333

※1：有価物として売却しているものは除く。 ※2：化学物質は、PRTR対象物質である。

●環境目標及びその実績

(1) 中期目標

年 度 項 目		2019年度 基準年度	2020年度	2021年度	2022年度
I. 二酸化炭素 排出量の削減	kg-CO ₂ /百万円	450.005	445.505	441.005	436.505
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
電力使用量の 削減	kg-CO ₂ /百万円	461.890	457.271	418.503	414.275
	対基準		△ 1 %	2020年度△1%	2020年度△2%
ガソリン 使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	13.347	13.214	13.080	12.947
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
軽油 使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	25.312	25.059	24.806	24.553
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
LNG 使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	344.168	340.726	337.285	333.843
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
II. 廃棄物排出量					
産業廃棄物※1の 削減	kg/百万円	24.27	24.03	150.58	149.06
	対基準		△ 1 %	2020年度△1%	2020年度△2%
一般廃棄物※1の 削減	kg/百万円	6.456	6.391	6.327	6.262
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
III. 水使用量の 削減	m ³ /百万円	4.023	3.983	3.943	3.902
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
IV. 化学物質※2 使用量の維持	kg	1,118.75	1,118.75	1,118.75	1,118.75
	対基準		2019年実績維持	2019年実績維持	2019年実績維持

※ 出光興産株式会社2018年度公表値（調整後）：0.598kg-CO₂/kWh

関西電力2018年度公表値（調整後）：0.334kg-CO₂/kWh

※ 「2020年度代表者による全体の評価と見直し・指示」により2021年度の電気使用量の削減、産業廃棄物の削減目標を2019年度の2%削減ではなく、2020年度実績の1%削減に目標値を見直した。

※ 電力使用量2020年度実績：422.730kg-CO₂/百万円、産業廃棄物排出量2020年度実績：152.098kg/百万円

(2) 対象期間の実績

年 度 項 目		基準	2022年度			
		2019年度 実績	(2022年4月～2023年3月)			
			目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素 排出量の削減※3	kg-CO2 /百万円 対基準	450.005	436.505	418.887	104.2%	○
			-3%	-6.915%		
電力使用量の 削減※4	kg-CO2 /百万円 対基準	461.890	414.275	401.114	103.3%	○
			2020年-2%※7	-13.158%		
ガソリン使用量の 削減※4	kg-CO2 /百万円 対基準	13.347	12.947	7.829	165.4%	○
			-3%	-41.343%		
軽油使用量の 削減※4	kg-CO2 /百万円 対基準	25.312	24.553	9.940	247.0%	○
			-3%	-60.730%		
LNG使用量の 削減※5	kg-CO2 /百万円 対基準	344.168	333.843	289.578	115.3%	○
			-3%	-15.861%		
二酸化炭素排出量 総量※6	kg 対基準	1,375,004.600	1,333,754.462	1,592,868.440		
			-3%	15.845%		
II. 廃棄物排出量						
産業廃棄物※1の 削減	kg /百万円 対基準	24.27	149.06	289.578	51.5%	×
			2020年-2%※7	1093.152%		
一般廃棄物※1の 削減	kg /百万円 対基準	6.456	6.262	4.337	144.4%	○
			-3%	-32.822%		
III. 水使用量の 削減	m ³ /百万円 対基準	4.023	3.902	3.253	120.0%	○
			-3%	-19.140%		
IV. 化学物質※2 使用量の維持	kg 対基準	1,118.75	1,118.75	333.050	335.9%	○
			維持	4.770%		

注) 評価欄にて、○：達成（100%以上）、△：やや未達成（95%～100%未満）、×：未達成（95%未満）

※1、※2の説明は●主な環境負荷の実績を参照。

○原単位の計算方法ほか

※3 電力使用量、ガソリン使用量及び軽油使用量からのCO2排出量/売上額（2022年度2,746百万円、2021年度2,112百万円、2020年度2,453百万円、2019年度2,263百万円）で除する。

※4 売上額（2022年度2,746百万円、2021年度2,112百万円、2020年度2,453百万円、2019年度2,263百万円）で除する。

※5 LNGからのCO2排出量をLNG発生部門のみの売上額（2022年度1,562百万円、2021年度1,212百万円、2020年度867百万円、2019年度1,036百万円）で除する。

※6 二酸化炭素排出量総量は、電力使用量、ガソリン使用量、軽油使用量及びLNG使用量から発生するCO2排出量の合計

※7 2020年度代表者による全体の評価と見直し・指示により2021年度の電気使用量の削減、産業廃棄物の削減目標を2019年度の2%削減ではなく、2020年度実績の1%削減に目標値を見直した。

電力使用量2020年度実績：422.730kg-CO2/百万円、産業廃棄物排出量2020年度実績：152.098kg/百万円

●環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の環境経営計画（取組内容）
二酸化炭素排出量の削減 （目標達成）		
・下記の通り。	○	部品入手難による電装部の売上減の影響もあったが、全社的に売上増加となり、産廃以外すべて目標達成となった。産廃については海外梱包材の木枠から鉄枠、エアパッキンに変更することにより減少傾向であったが目標未達成となった。次年度以降は全項目が目標達成できる様、活動すること。
電力使用量の削減 （目標達成）		
・省エネ空調機4台更新による電気使用量抑制	◎	空調機4台（ユニット電調1台、板金工場3台）更新完了した。導入前の机上の計算にて年間消費電力1455.9k Wの削減効果が期待できる。
・離席時のCRT消灯	◎	全社環境・安全チェックシートによる月1回のCRT消灯確認による習慣化されていると評価する。次年度も継続活動すること。
・不要照明の消灯	◎	全社環境・安全チェックシートによる月1回の不要照明の消灯確認による習慣化されていると評価する。次年度も継続活動すること。
ガソリン使用量の削減 （目標達成）		
・アイドリングストップの励行	◎	駐車時及びアイドリングストップ搭載車による効果があったと評価する。次年度以降社有車更新時は同機能搭載車を検討する。
・効率的な移動	○	可能な限り前倒し納品で品物をまとめて納品便の回数を減らす対応ができていたと評価する。次年度も社員への意識向上活動を継続すること。
・ハイブリッド車によるガソリン使用量抑制	◎	ガソリン車からハイブリッド車へ更新を実施した。。導入前のガソリン削減量計算にて年間429Lの削減効果が期待できる。次年度以降、更新車両がある場合に低燃費車への更新検討を実施すること。
軽油使用量の削減 （目標達成）		
・効率的な移動	○	可能な限り前倒し納品で品物をまとめて納品便の回数を減らす対応ができていたと評価する。次年度も社員への意識向上活動を継続すること。
・庸車の有効活用による自社便の削減	○	庸車の有効活動は問題なく実施できていたと評価する。来年度は、より具体的計画の立案による削減目標の決定も必要である。
・低燃費車への更新	×	今年度更新はなかった。次年度以降、更新車両がある場合に低燃費車への更新検討を実施すること。
LNG使用量の削減 （目標達成）		
・メンテナンス実施による不完全燃焼の抑制	◎	設備の日常点検、定期的な清掃、メンテナンスの実施の継続で効果あったと評価する。次年度以降、維持継続活動すること。
・乾燥炉内清掃/点検	○	設備の日常点検、清掃の定期的な実施の継続で効果あったと評価する。次年度以降、維持継続活動すること。
・蒸気配管の蒸気漏れ有無確認	○	設備の日常点検、清掃の定期的な実施の継続で効果あったと評価する。次年度は、メンテナンス実施による更なる削減活動を実施すること。
産業廃棄物の削減 （目標未達成）		
・有価引き取りの徹底及び強化	○	分別廃棄、木箱の釘の有価引き取り等を実施しており、意識向上していると評価する。次年度以降も社員への意識向上の継続活動を実施すること。
一般廃棄物の削減 （目標達成）		
・リサイクル用紙引き取りの徹底及び強化	○	リサイクル用紙引き取りへの意識向上していると評価する。次年度以降も更なる社員への意識向上活動の継続を実施すること。
水使用量の削減 （目標達成）		
・節水の徹底及び強化	△	節水の呼びかけ等の具体的な活動実施できなかったと評価する。。次年度以降、全社意識向上活動展開すること。
・ディップ層清掃による入替頻度削減	◎	湯洗、脱脂槽のストレーナ清掃を定期的実施したことで入替頻度の削減は実施できていたと評価する。次年度以降も清掃及び品質状況確認の継続を実施すること。
・塗装ラインのポンプ点検、メンテナンス実施による水漏れ削減	◎	各種ポンプの水漏れ、異音状況確認実施し監視できていたと評価する。次年度以降も継続活動を実施すること。
化学物質使用量の維持 （目標達成）		
・化学物質の管理徹底	◎	昨年度使用量より大幅に減少となり管理上問題なかったと評価する。次年度以降、維持継続活動すること。

●環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。順守評価日：2023年4月1日

適用される法規制	遵守すべき要求事項	遵守評価
環境基本法	公害防止・廃棄物への対応・リサイクル・行政への協力	遵守
大気汚染防止法	設備設置・構造変更時届出、代表者・事業者の名前変更、設備の廃止・承継届出、事故(特定物質、ばい煙が大量に排出)時の措置届出	遵守
水質汚濁防止法	公共用水域への排出水の排出基準の遵守、特定施設の届出、水質の測定と記録、事故時の届出	遵守
下水道法	公共下水道を使用して下水を排水する特定事業場・特定施設の届出、排水基準の遵守、水質の測定と記録、事故時の届出	遵守
騒音規制法	指定地域内の特定施設の届出、規制基準の遵守、年2回の測定	遵守
振動規制法	指定地域内の特定施設の届出、規制基準の遵守、年2回の測定	遵守
廃掃法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
家電リサイクル法	特定家電7品目の適正な事業者（家電販売店）への引き渡し	遵守
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正な事業者（引取登録事業者）への引き渡し	遵守（2台）
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な処理	遵守
省エネルギー法	エネルギー管理統括者・エネルギー管理者等の届出、エネルギー使用に関する定期報告書・中長期計画書の提出	遵守
P R T R 法	第1種・第2種指定化学物質の排出・移動量の届出、M S D S の提供	遵守
消防法	（防火対象物）防火管理者の届出、消防計画の作成、避難訓練の実施、消火設備・火災警報設備の点検整備、避難設備の維持 （危険物取扱所）設置許可、技術基準の遵守、危険物保安監督者の届出、定期点検の実施と記録の保存	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。

なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

●代表者による全体の評価と見直し・指示

当社は「人と地球にやさしいモノづくりで社会に貢献する」というスローガンを掲げ、環境保護活動に取り組んでいます。

2022年7月に受審したエコアクション21の更新審査が『更新・登録』できたことを評価します。これは当社の環境活動への取組みが細部にわたり社員に浸透している結果であると考えます。しかしながら、ISO14001要求事項に沿ったマニュアルをベースとした環境マネジメントシステムの運用を、エコアクション21にも適合させるよう見直すという課題については、変更点の整理、見直し担当の決定、会社規則単位の改定まで実施するも、全体見直し検討及び確認が完了せず、2022年度での完結に至らなかったのは反省材料です。2023年度内には完了するよう対応願います。また法令遵守の側面では、新たに義務化となる「溶接マスクテスト」及び「化学物質の別容器表示」を確実に実施・運用できるよう社規ルールを確立する他、引き続き法律改正情報の入手及び改正時の対応を今後も着実に実施してください。統合内部監査におけるプロセス確認では、環境に特化した監査時間を確立することで活動状況の確認範囲が広がりましたが、狙いとする「品質とリンクしたプロセスアプローチ」で進めることができるよう、規格及びマニュアルの理解度を更に向上させましょう。

このような結果から、環境経営方針、目標・活動計画・実施体制の見直しは不要と判断します。

2023年5月17日

●環境活動の紹介

営業部

営業部商事課の社有車(ランサーカーゴ)をハイブリッド車に更新
燃費比較

車種	ランサーカーゴ (旧)	プロボックスバン (新)
車両番号	神戸400ぬ8543	神戸400ま7076
登録年	2010年11月	2022年12月
経過月	144か月	
総距離	229984km	
年間平均走行距離	19165km	
カタログ燃費	15km/L	22.6km/L
年平均使用燃料(L)	1277L	848L
改善率	66.40%	
燃費向上による燃料の削減量(L/年)	429L	
燃費向上による燃料の削減金額(155円/L)	66,495円	

当該車両(プロボックスバン)

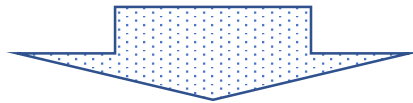


【燃料電池発電システム Hydro. eLife】

- ・カーボンニュートラル、水素社会実現に貢献する純水素燃料電池システムの開発事業を推進中。社内での各種発電実証を経て、2022年6月17日、第14回神戸ものづくり中小企業展示商談会で試作機による発電実証を行い、システムの性能評価だけでなく水素燃料電池の普及に向けた活動を展開。

1kW

純水素燃料電池発電システム



■第14回神戸ものづくり中小企業展示商談会での発電実証

- ・1kW純水素燃料電池発電システムにより発電し、スポットクーラーを稼働させる実証を会場入口付近で実施。



●環境活動の紹介（機製部）

廃棄物（木くず・発泡スチロール・梱包くず（ビニール））の削減

2022年6月～顧客、徐州阪神機器、当社の3社で運用に向けた検証を継続中

従来（木枠＋製品の全面緩衝）



改善（鉄枠＋製品の部分緩衝）



廃棄品



木枠＋緩衝材



鉄枠（有価）